

知教労と半田市教育委員会との話し合い結果

半田市教育長 鈴木 慶光 教育部長 岩橋 平武 学校教育課長 森田 知幸 主任指導主事 鈴木 康弘
知多地方教職員組合副委員長 岩澤 弘之 同 市野 司 半田支部 岡田 康

1 労働安全衛生法にもとづき、適正なマネジメントを進めてください。

(知教労) 働き方の「ガイドライン」が改訂されて一年経過するが、進捗状況は、

知教労が6月に行った情報公開による調査によると、市内の小学校で57%、中学校で65%の教員が週45時間を超えている。80時間越えの教員もそれぞれ10%、26%いる。

(教委) 自動音声対応の電話(留守電)の導入をしたり、部活動のガイドラインの作成を見直して、朝部活動は無くし、帰りも最長17時30分にした。8月は閉校日の設定などの効果もあってすべて45時間以下だった。

(知教労) 努力されていることも認める。隣町では文書で働き方の管理の方針を出しているが、半田市はどうか。

(教委) 半田市も作って各学校にすでに各校に通知している。

(知教労) まだ、十分に全職員に伝わっていないのではないか。再度周知してもらいたい。そのような文書は教育長会でも話題になっているのか。

(教委) 教育長会議でも(何時までという期限はないが)作ることになっている。

(知教労) 半田市の勤務時間管理ソフトでは、8時間30分の勤務時間に設定されており、休憩が取れなかった時に修正するには管理職の「承認」が必要になる。ただでさえ面倒なのに、毎日それをするのは難しい。それに、校門を入ったとき(勤務時間の始まり)から、コンピュータを立ち上げて打刻するまでのロスもあり、正確な勤務時間の把握とはなっていない。月にすれば15時間以上違ってくる。違法な状態だ。

(教委) 県立の高校は上手く修正ができるようになっていたようだ。実は、5市5町の課長の会議でも交流はしていて、どの市町でも問題にはなっている。(シーホースなど)同じソフトでも契約によって(修正方法が)違ってくる。他の市町の状況も聞きながら、適正にするにはどうしていけばいいのか考えていく。

(知教労) 勤務時間の割振りが、適正につけていただいている例はあるが、夏季休業中のまとめ取りばかりで、実際には勤務時間超過の免罪符になっていることもある。理念としては、前後4週間の間に取りせるとのことだから、消化することも進めてほしい。

(教委) 各学校に(取り方を)調査しているわけではないが、割り振り簿は適正に処理されているはずだ。校長会でも呼びかけている。

(知教労) 超勤が月100時間を超えた場合、産業医の面談を受けさせるよう要求しているが、今年実際に受けた人はいるのか。

(教委) 1名希望があって受けていただいた。

(知教労) 50人以上の職場には労働衛生委員会を設置することになっているが、昨年度から進んだ状況はあるのか。(再任用や非正規の職員が増えているので、状況は変わっている。)

(教委) 相変わらず委員会を設置しているのは、半田中と乙川中だけだ。

(知教労) 法令通り、設置すべきだ。50人未満の職場でも考えていくべきだ。

2 学校行事や事務などが職員の負担にならず、教員の自主的な研修が保障できるようにしてください。

(知教労) 学校訪問時の指導案をA4 1枚にしている学校は(成岩中以外に)あるのか。ぜひ広げてほしい。

(教委) 宮池小学校がそうしている。負担軽減としては、学校訪問の打ち合わせは、(教育委員会が)学校に出向いている。指導案集にインデックスを貼ったり、背表紙を付いたりするなどということはやめてもらっている。電子化した指導案を(訪問者に)タブレットで見せていただいている例もあった。指導案をA4 1枚にするか、両面にするかは各学校で判断していただいている。

(教育長としては)学校訪問時でなければ授業の流れなどをしっかりと考える機会として、正式な指導案を書いていただきたいと思っている。

(知教労) 勤務時間を減らしていくのにどこを減らすか

という点では、学校訪問の在り方も考えていくべきだ。それと、学校訪問を通じて各学校の勤務の状況を調べていくことも大切だ。

(知教労) 行事の精選を進めるという点で、職場体験学習は取りやめる方向で考えてほしい。

(教委) ここ2年はコロナでできなかったが、半田市はキャリア教育を重要と位置付けている。教員の負担にならないように教育委員会でも受け入れの調整を行っている。

(知教労) 行事の精選というならば、ここが一番になる。毎年言っているが、ウイズコロナの中でも続けるのか。

(知教労) 国語科や美術科に対する作品募集に制限をつけ、負担軽減につなげてほしい。

(教委) もうすべての作品は、募集だけかけていただいて、集まった作品はそのまま選定せずに出していただくようになっているのではないかと。

(知教労) 地域の行事(夏休みのラジオ体操など)に教員を動員させないようにしてほしい。

3 部活動の適切な運営について

(知教労) 市としての部活動のガイドラインは(確認)

(教委) 朝部活は原則中止、最終下校時刻は最長17時30分とした。

(知教労) 教師が部活動を指導するかどうか、生徒が部活動に参加するかどうかの選択ができるようにすべき。

(教委) 複数顧問制にしているのですが、実際には負担が多くはない。

(知教労) 名前が載っている以上やらないと肩身が狭いだろうし、休日の付き添いなど頼まれることもある。実際に家庭があり、できないのなら名前を載せるのも考えものだ。

(教委) 地域としての部活動の在り方を再度考えていきたい。国も今は推奨している。前回上手くいかなかったことの反省を踏まえて先進事例を参考にしながら考えていきたい。

4 ゆきとどいた教育を実現するため、教育諸条件の充実を求めていってください。

(教委) 支援員などの配置には力を入れている。支援員は今年度小学校で39名、中学校で15名、

特別支援学級に16名充てている。さらにコロナ関連枠で各小中に1名ずつ加配した。スクールカウンセラーは県費の6名に半田市として3名追加、2時間の上乗せをしている。スクールソーシャルワーカーは、市で1名、心の相談員は、中5名小2名充てている。来年度は(支援する人数を)さらに増やすことも考えている。

(知教労) 給食事務の負担軽減を考えてほしい。

(教委) 給食費の徴収事務を給食センター主導でやれないかと今考えている。令和6年度くらいから実際に取り組めないか学校事務と給食センターで打ち合わせている。

(知教労) 特別教室などへの空調設備の導入を進めてほしい。

(教委) 乙川中学校の建て替えがスタートした、令和4年度に引越す予定だ。そこで普通教室に現在取り付けられているエアコンを30台程度、市内の各学校の特別教室に付け直すことを考えている。市内18校あるので、特別教室を一斉にというわけにはいかない。次の亀崎小学校でまた同様にしていく。

(知教労) 児童・生徒や教職員にシャワートイレの設置を進めていってほしい。多目的トイレの設置は法律で義務付けされているのではないかと。

(教委) 多目的トイレについては、(建て替える乙川中学は)フロアに1つずつ設置する。シャワートイレは一部の学校でつけた。つけたのはやまやまだか、なにせ校舎が古くて付ける工事が難しい。とにかく子供の安全を最優先に考えたい。

5 その他

(知教労) 教育振興会などの任意団体の要件での出張がどうしてまかり通っているのか。教育長会議で意思統一をしてやめる方向で考えてほしい。

(知教労) 文科省が一部で導入を考えている一年ごとの変形労働制には慎重な姿勢を取ってください。

(知教労) 新型コロナに対応する措置として希望者がPCR検査を受けられるようにしてください。

(教委) 半田市で購入している抗体検査キットを準備している。簡便で使いやすいので、感染の兆候が見られたらすぐにでも利用できるようにしている。

(知教労) 教員がやるには、正確性と安全性が問題だ。専門家ができるシステムを考えてほしい。

話し合いに真摯に向き合っていたいただいた教育委員会に感謝を申し上げます。